

平成29年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。



<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成29年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成29年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題（Ａ） ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 【小学校国語Ａ・算数Ａ 各２０分】 【中学校国語Ａ・数学Ａ 各４５分】	主として「活用」に関する問題（Ｂ） ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など 【小学校国語Ｂ・算数Ｂ 各４０分】 【中学校国語Ｂ・数学Ｂ 各４５分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも２０分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

桶川市の調査結果の概況

小学校

国語	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	1	68.2	69.8	69.2	3	64.2	63.1	64.9
書くこと	2	61.6	59.5	60.6	5	53.7	52.6	53.4
読むこと	3	70.7	69.2	70.2	3	50.3	49.2	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	81.0	78.1	78.0	0	—	—	—

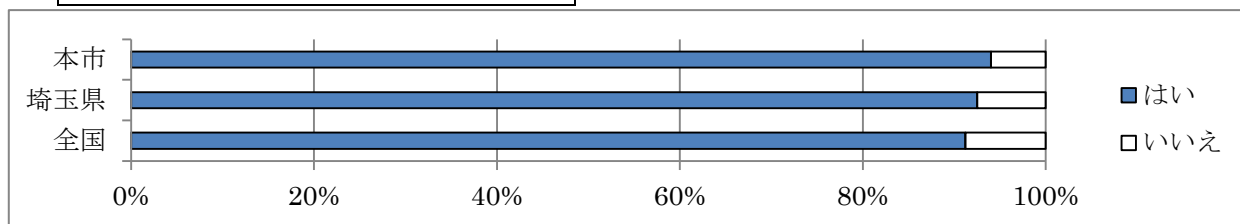
算数	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	8	76.4	77.6	80.6	5	51.8	51.4	52.8
量と測定	2	66.1	66.2	68.8	2	43.3	44.1	47.0
図形	2	83.2	79.6	81.1	1	11.3	11.3	13.2
数量関係	5	75.3	76.3	79.6	8	38.9	38.5	40.0

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

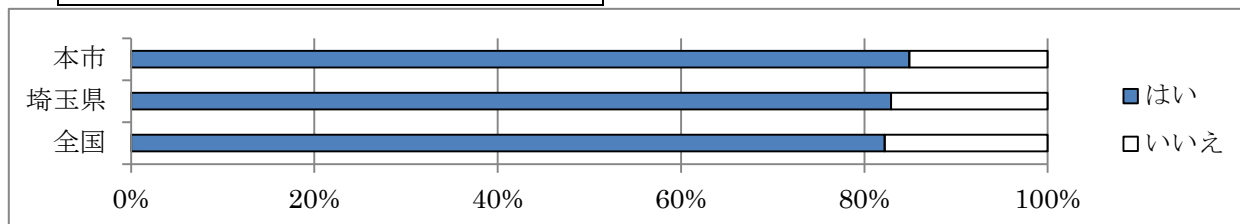
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

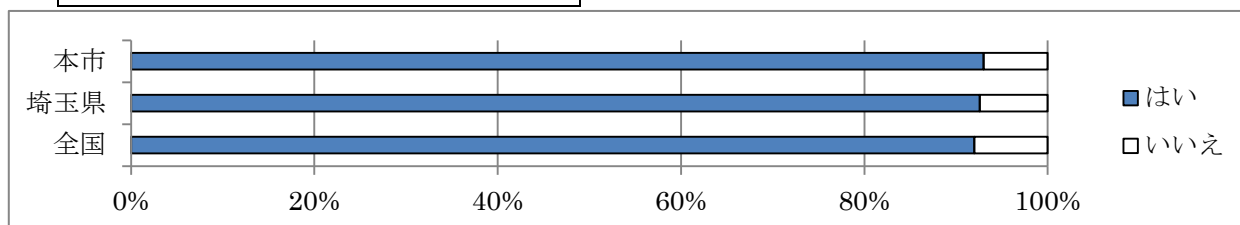
国語の勉強は大切だと思いますか。



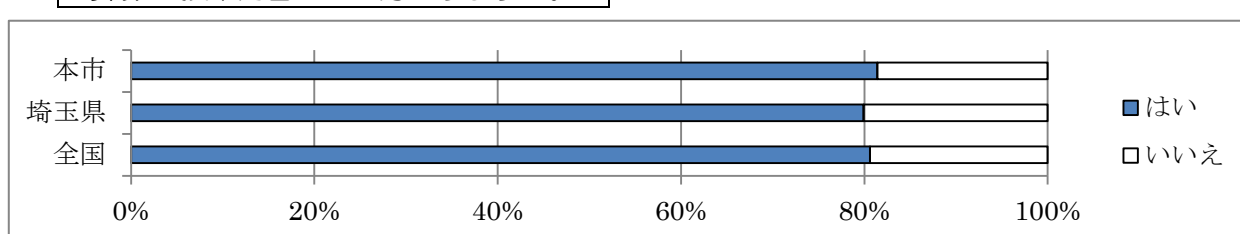
国語の授業内容はよく分かりますか。



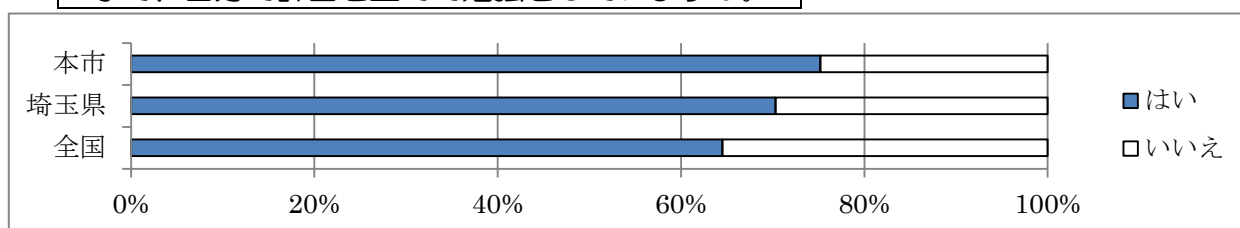
算数の勉強は大切だと思いますか。



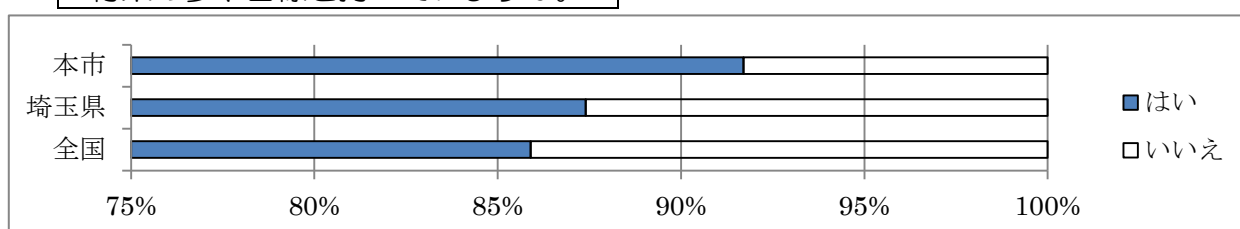
算数の授業内容はよく分かりますか。



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



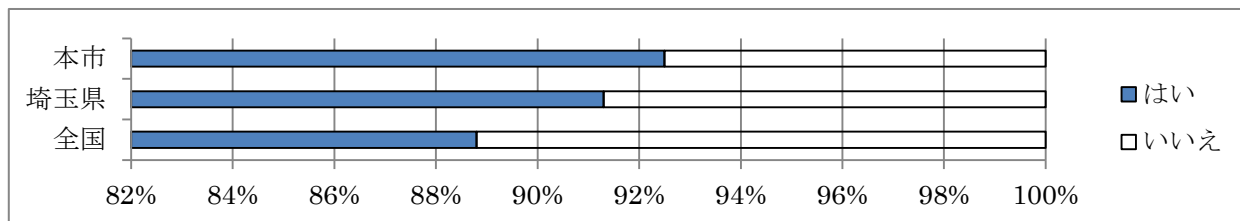
中学校

国語	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	4	76.4	74.0	75.4	3	75.0	71.7	72.4
書くこと	4	86.0	84.4	85.7	4	65.0	60.6	60.8
読むこと	6	74.0	71.6	73.8	4	76.0	71.4	72.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	77.8	76.0	77.2	1	47.0	41.4	41.4

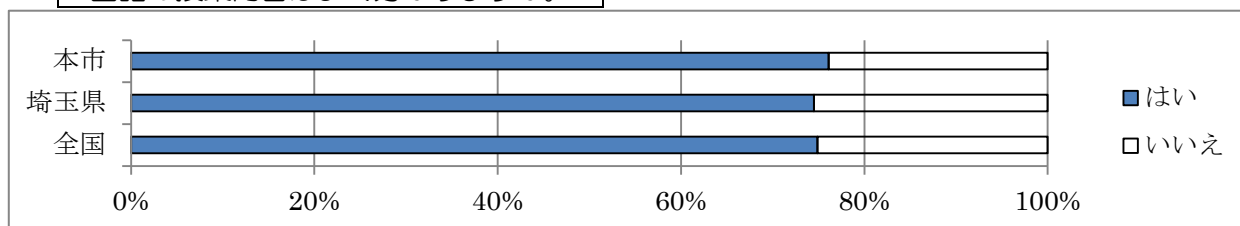
数学	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	12	69.4	68.9	70.4	3	44.7	44.6	46.3
図形	12	67.3	65.2	66.0	6	52.0	47.4	47.1
関数	8	56.4	55.5	57.4	3	52.9	50.0	50.8
資料の活用	4	60.2	57.3	57.6	3	47.7	48.9	49.1

<生徒への質問紙調査>（主なものをグラフで表示）

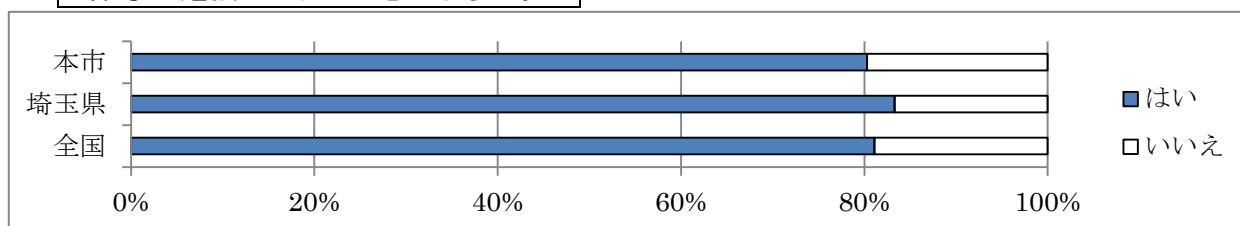
国語の勉強は大切だと思いますか。



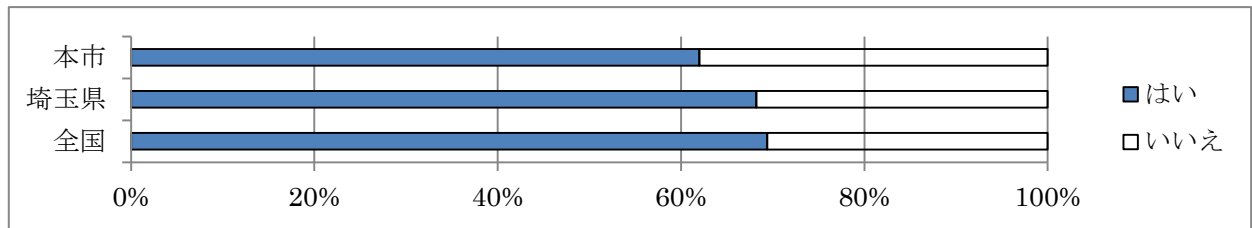
国語の授業内容はよく分かりますか。



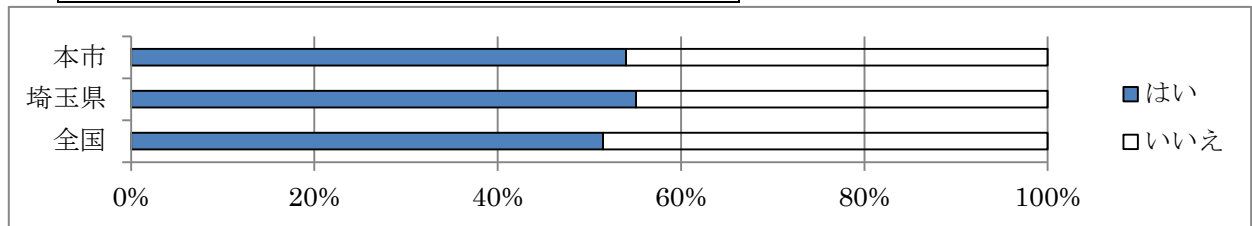
数学の勉強は大切だと思いますか。



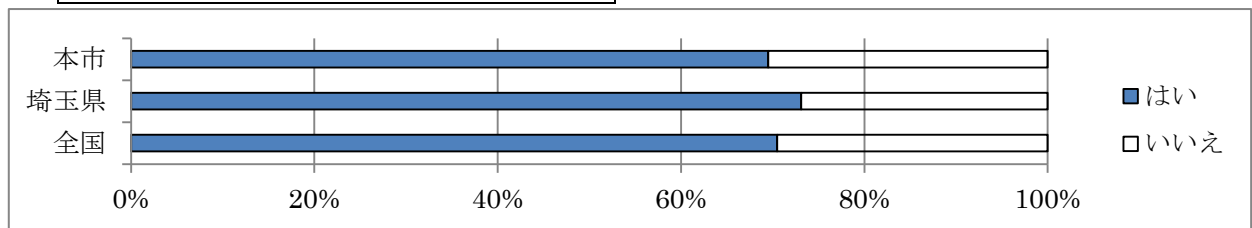
数学の授業内容はよく分かりますか。



家で自分で計画を立てて勉強していますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



桶川市の調査結果の分析・考察

<小学校国語A>

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」は、全国の平均より下回りましたが、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域は、全国の平均を上回っています。

分析

○「読むこと」では、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書くことができます。

◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、今回出題された漢字の読み書きは、多くの児童が身に付けていますが、漢字によって、正答率が低いことが分かります。

◆「話すこと・聞くこと」では、進行に沿って話し合うことに課題があります。

【問題例①】

問題 1

学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを一つ選択する

- 1 話し合って一つにまとまったことを報告している。
- 2 一番多く出されたことを報告している。
- 3 学級全体で取り上げてほしいことを報告している。
- 4 同じ意見でも理由がちがうことを報告している。

正答 3

本市正答率 68.2% (全国 69.2%)

<分析>

誤答例

誤答	誤答率 (%)	
	本市	全国
1	8.8	7.2
2	9.3	6.3
4	13.5	17.1
無回答	0	0.1

◆誤答として4が多いのは、「太陽」がよいという意見について、それぞれが発言したイメージ部分に着目しているが、「銀河」についても考えてほしいという野村さんの意図を捉えられなかったことが考えられます。

◎国語の授業のみならず、特別活動における話し合い活動など、他教科等での言語活動とも深い関連があります。

【問題例②】

問題 7

- (1) 漢字を書く (参加たいしょう)
- (2) 漢字を書く (きぼう者)
- (3) 漢字を読む (期限)
- (4) 漢字を読む (事務室)
- (5) 漢字を書く (箱が**お**いてあります)
- (6) 漢字を読む (指示)

正答

	正答	正答率 (%)	
		本市	全国
(1)	対象	54.4	42.0
(2)	希望	87.9	80.0
(3)	きげん	95.7	94.5
(4)	じむしつ	91.7	88.8
(5)	置いて	80.9	76.8
(6)	しじ	97.2	94.5

<分析>無解答率

	正答	無解答率 (%)	
		本市	全国
(1)	対象	6.5	10.6
(2)	希望	2.5	4.6
(3)	きげん	1.2	3.0
(4)	じむしつ	1.7	3.0
(5)	置いて	9.2	11.8
(6)	しじ	1.3	2.9

◆(1)や(5)においては、同音・同訓の漢字の書き取りに課題が見られます。

◆漢字を書く問題においては、画数が多い字に誤りが見られます。

◎学年別漢字配当表の漢字の読み書きについて、日々の漢字の読み書きの練習が大切です。また教科書の音読、読書を行うことは、漢字の読みだけでなく、意味の習得にもつながります。

<小学校国語B>

【領域別の分析】

結果からわかること

○「書くこと」「読むこと」においては、県平均、全国平均を上回っています。

◆「話すこと・聞くこと」のみ県平均を上回ってはいますが、全国平均を下回っています。

分析

○登場人物の心情や物語の全体を描写を捉えながら読むことができています。

◆叙述に基づかず、これまでの学習経験から解答してしまう児童が約2割います。

◆複数の条件を満たすように記述する際に、条件の一つが満たされないまま解答する児童が半数近くいます。

◆「話すこと・聞くこと」ではありますが、「叙述に基づいた解答」と「質問内容に正対するための文章理解」の充実が大切だと考えられます。

【問題例①】

問題 1 一

【グループの話し合いの様子】の動画を見る場面において、どのような目的で動画を見えていますか。その説明として最も適切なものを四つの選択肢から選ぶもの。

正答

3 相手に応じた話し方の改善点について、確かめるため。

本市正答率 78.7 %

<分析>

誤答例

2 よい点を多く見つけて、他の人の参考にしてもらうため。

本市解答率 7.8%

4 姿勢や表情に気をつけて話していたか、ふり返るため。

本市解答率 6.8%

○本市正答率は、全国に比べて1.5ポイント上回っています。

◆話し合いの様子の叙述から判断せず、短絡的にこれまでの学習経験から判断して解答してしまう傾向が見られました。また、「動画＝表情がわかる」という言葉から連想される選択肢を選んでしまう児童も見られました。

◆「話すこと・聞くこと」の領域であるが、問題文を読み、整理しながら、叙述に基づいて解答するということが課題です。

◎授業や家庭学習において、問題文のように実際に友達や家族の発表の様子を観察し、観点にそって振り返ることが大切です。

【問題例②】

問題 1 三

スピーチの内容をどのように話すとよいか以下の条件を満たして書くもの。

①（スピーチメモ）と（グループの話し合いの様子）から、それぞれ取り上げて書く。

②スピーチにふさわしい言葉づかい。

③80字以上、100字以内で書く。

正答

上記三つの条件を満たしている。
（一つ目は両方取り上げる）

本市正答率 45.1 %

<分析>

誤答例

一つ目の条件で、（スピーチメモ）と（グループの話し合いの様子）の二つの内容を取り上げることができていない。

本市解答率 46.9 %

◆「問われていること」を正確に把握することが課題です。また、自らの書き上げた文章を見直し、条件を満たしているか確かめる（推敲する）習慣づくりが重要であると考えます。

◆相手を意識した丁寧な言葉づかいが身につけていない児童も見られます。普段から場に応じた言葉づかいを意識することが大切であると言えます。

◎話の内容や構成を工夫したり、場に応じた言葉づかいで話したり、表現の仕方（表情や抑揚など）に注意したりすることが大切です。

<小学校算数A>

【領域別の分析】

結果から分かること

○昨年度、全国平均を下回っていた「図形」では、全国平均を2ポイント上回り改善が図られました。

◆「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3領域において、今年度は全国平均を2～4ポイント下回っています。

分析

○【問題例①】では、問題場面における二つの数量の関係を理解することに高い定着が見られます。

◆【問題例②】では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題が見られました。

◆【問題例③】では、資料を二次元表に分類整理することはできていましたが、二次元表の意味を理解できていない傾向が見られました。

【問題例①】

問題 1

1 mあたりの値段が 60 円のリボンは何 m か買います。そのときの代金の求め方を考えます。

(1) リボンを 2 m 買ったときの代金はいくらですか。また、リボンを 3 m 買ったときの代金はいくらですか。それぞれ答えを書きましょう。

正答 120 円、130 円 本市正答率 97.0%

(3) 0.4 m 分の代金を求めるための式を、 60×0.4 としました。 60×0.4 の答えを求めるために、次のように、 60×4 の答えを使います。

カではどのようなことをしますか

正答 10 でわる 本市正答率 89.7%

<分析>

○問題場面における二つの数量の関係を理解したり、乗法の性質を理解し小数の乗法の計算の仕方を考えたりすることができています。

◎計算の答えを機械的に求めるだけでなく、その計算の意味や性質をしっかりと理解できていることがわかります。

【問題例②】

問題 2 (3)

次の計算をしましょう。

$$(3) 6 + 0.5 \times 2$$

正答 7 本市正答率 50.6%

<分析>

誤答例

1 3 本市解答率 29.5%

◆加法と乗法の混合した計算ですが、乗法を先に計算せず、 $6 + 0.5$ から計算してしまっている児童が約3割いる状況です。

◎計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにすることが大切です。

【問題例③】

問題 9 (1)

下の出席番号1番の人は右の表のアからエまでの中のどこに入りますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

飼っている動物調べ		
出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている
×…飼っていない

正答 イ 本市正答率 88.0%

問題 9 (2)

下の表のオにあてはまる数を書きましょう。

飼っている動物調べ (人)			
		ネコ	
		○	×
イヌ	○	ア	イ
	×	ウ	エ
合計			オ

○…飼っている
×…飼っていない

正答 13 本市正答率 58.6%

<分析>

○9 (1)では、資料を二つの観点に着目して、二次元表に分類整理することができます。

◆資料を二次元表に分類整理することはできていますが、二次元表の合計欄の意味はできていないと考えられます。

誤答例 26 本市解答率 16.5%
本市無解答率 5.5%

◎二次元表に示された数値が適切なものであるかどうかを確かめる方法の一つが、「合計」の数値に着目することです。そのためにも、二次元表の合計欄の意味を理解し、資料を的確に整理できたかどうかを判断することができるようにすることが必要です。

<小学校算数B>

【領域別の分析】

結果から分かること

◆「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で全国平均を下回っています。

分析

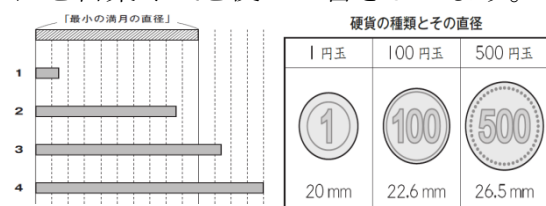
○「数量関係」において、百分率を活用し、基準量、比較量、割合の関係に気づき、ほかの必要な情報を判断し特定することにおいては、全国平均よりも高い正答率となりました。

◆設問ごとにみると、概ね全国と傾向は同じですが、本市正答率が30%を下回った問題が4問、無解答率が10%を超えた問題が2問でした。基礎的・基本的内容の定着について課題があり、得た知識や技能を活用する基礎を身に付ける必要があります。

【問題例①】

問題 5 (2)

満月の直径を硬貨の大きさに見立てて考えます。「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は100円玉、500円玉どちらに近いですか。また、理由を言葉や式を使って書きましょう。



正答例

$$20 \times 0.14 = 2.8 \quad 20 + 2.8 = 22.8$$

$$(20 \times 1.14 = 22.8)$$

100円玉の直径は22.6mmで500円玉の直径は26.5mmです。二つを比べてみると100円玉の直径との差が小さいから。

本市正答率 11.3%

<分析>

誤答例 必要な計算と違う計算をしている。

$$20 \times 1.4 = 2.8 \quad 20 \times 0.14 = 0.28$$

$$20 + 1.4 = 21.4 \quad 20 - 1.4 = 18.6$$

本市解答率 41.5%

本市無解答率 8.8%

◆本市の正答率は、全国平均正答率を2.0ポイント下回っています。無解答率は全国平均とほぼ同様となっています。

◎問題では、「満月の大きさ」を「硬貨」に置き換えています。最小、最大において基準量と比較量を明確にすること、課題を解決するために必要な情報を収集し、活用する力が大切です。

【問題例②】

問題 3 (2)

表をもとにして7m20cmを超えた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書きましょう。

【かずやさんの平均の求め方】

7mをこえた部分の平均を求めます。

$$(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$$

7mに、求めた平均の40cmをたします。

車が進んだきよりの平均は、7m40cmです。

表2 ①の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合の記録

回数	車が進んだきより
1	7 m 52 cm
2	7 m 31 cm
3	7 m 54 cm
4	7 m 20 cm
5	7 m 43 cm

正答例

・7m20cmを超えた部分の平均を求める。

$$(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$$

・距離の平均が7m40cmになることを表す数や言葉を書いている。

本市正答率 20.0%

<分析>

誤答例

「7mを基準にして平均値を求めている」

本市解答率 19.1%

本市無解答率 13.6%

◆本市の正答率は、全国平均正答率を6.1ポイント下回っています。また無解答率は0.9ポイント上回っています。

◎グラフ、式、言葉などから必要な情報を関連付けて式の中の数の意味を解釈し、説明する力を身に付ける必要があります。

<中学校国語A>

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」四つ全ての領域で、全国及び県の平均を上回っています。

分析

○目的に応じて資料を効果的に活用して話すことや、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめることなどについて、高い定着が見られます。

◆場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することについて、やや課題が見られます。

◆漢字の読み書きについて、「文脈に即して正しく読むこと」は高い定着が見られますが、「文脈に即して正しく書くこと」は課題が見られます。

【問題例①】

問題 3 一

「健一たちは練習をがんばってきた。」の下線部を、より読み手に伝わるように「がんばる」という単語を使わずに、十五字以内で書き直すもの。

正答例

「今日まで練習を積み重ねてきた」
「毎日必死に練習をしてきた」

本市正答率 87.1%

<分析>

誤答例

「がんばってきた」

「練習してきた」

○書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること、いわゆる「推敲」の力をみる問題です。この問題では、①「がんばる」という単語を使わない、②「健一たちは」という主語に合わせて、十五字以内で書く、という二つを満たすことが正答の条件であり、「練習をがんばってきた」様子が読み手により伝わるように適切に書き直す力が求められています。

◎授業において、書いた文章を推敲する際には、伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているかについて、読み手を意識しながら考えさせています。事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めることや、読書等で着目した語句や文を生かして表現することなどを学習活動に取り入れていきます。語彙力を高めることで、目的や相手に応じた、適切かつ豊かな表現力が身に付きます。

【問題例②】

問題 6 二

下線部「どれもこれも仁王を^{かく}しているのはなかった」の意味として最も適切なものを選択するもの。

- 1 木挽が隠した仁王を見付けられなかった。
- 2 木が堅くて^{のみ}鑿では仁王を掘り出せなかった。
- 3 薪が小さすぎて仁王が入っていなかった。
- 4 仁王を彫刻することができなかった。

正答 4

本市正答率 62.7%

<分析>

◆出典は、夏目漱石『夢十夜』の「第六夜」です。文学的文章の読み取りのうち、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる問題です。道具を自在に操り作品を作る運慶を、若い男が「眉や鼻を鑿で作るのではなく、木の中に埋まっているのを掘り出しているのだ」と言います。主人公が誰でも出来ることだと思い込み、彫ってみたが仁王を作ることはできなかったという内容を捉えます。誤答として多かったのは、1 (22.1%) で、これは「仁王を隠して」と誤解したり、「仁王が見当たらない」等の部分的な表現から捉え違いをしたりしたものと考えられます。

◎文学的文章の読み取りを深めるには、生徒個々が、場面の展開や文脈に即して語句の意味を捉えながら読むことと併せて、グループで互いの解釈や感想を話し合う学習が有効です。自分の意見の根拠となる表現や場面を取り上げ、考えを伝え合う学習活動に積極的に取り組むことが重要であると考えられます。

<中学校国語B>

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」四つ全ての領域で、正答率が全国及び県の平均を上回りました。無解答率は、全国及び県の平均より概ね低い傾向です。

◆全ての設問で全国及び県の正答率を上回ってはいますが、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに関しては、正答率が半分以下と低くなっています。

分析

○文章を読み取り、内容を理解する力や、目的に応じて書く力など4領域において、全国及び県の平均と比べて高い定着が見られます。また、無解答の割合は全国及び県の割合に比べて概ね低いことから、多くの生徒がどんな問題に対しても諦めない姿勢で取り組んだ結果であることが分かります。

◆4領域の複数の力を問われる問題では、全国及び県平均を上回りますが、正答率が低い問題ほど無解答率が増加しているという課題が見られます。

【問題例①】

問題 1一

本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する問題。

正答

3 「水に濡らしてみようよ、と言った」

本市正答率 87.9%

<分析>

○1は図書委員が作った【本の紹介カード】と青山さんが読んだ【本の一部】を比べながら解く問題です。

その中で1一は【本の紹介カード】にある「自由奔放な妹の七葉」が、【本の一部】で具体的に表現されている箇所がどこかを選択する問題です。無解答率が0.0%であり、正答率は全国及び県平均を上回りました。

◎登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかを確かめる問題です。質問紙調査の「国語の勉強が好き」「国語の勉強は大切」「読書好き」と答えている生徒が多いことと関連があると捉えられます。これは、小・中学校における物語を扱う授業の中で、登場人物の心情描写の読み取りを積み重ねてきた成果であると考えられます。また、幼少期からの読み聞かせや学校での朝読書など、本に触れる機会を多くしたことで読む力が育まれていった成果とも考えられます。

【問題例②】

問題 1三

比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題。

正答の条件

条件1 比喻を用いた表現を書き抜く

条件2 誰のどのような様子なのかを明確に書く

条件3 感じたことや考えたことを具体的に書く

正答

条件のすべてを満たしているもの

本市正答率 47.0%

<分析>

◆1三は、【本の紹介カード】にある「比喻を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことを【読書の記録】に書く問題です。正答率は全国及び県平均を上回りましたが、国語Bの中で正答率が一番低く、無解答率も一番高い問題です。

◎表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題です。文章を読むことで自分の考えをもち、その自分の考えや気持ちについて根拠を明確にして書くことが求められています。解答類型では、条件2を満たしていない誤答が全国及び県平均より多く「誰の」「どのような」様子なのかを明確にして書くことに課題が見られます。授業の中で文章を読んでもった自分の考えを話し合ったり、文章に書いて読み合ったりする学習に取り組むことが大切であると考えられます。

<中学校数学A>

【領域別の分析】

結果から分かること

○全体では、全国の平均と同程度の正答率となり、「図形」「資料の活用」の2領域では1ポイント以上上回りました。

◆「数と式」「関数」の2領域では、どちらも全国の平均を1ポイント下回りました。

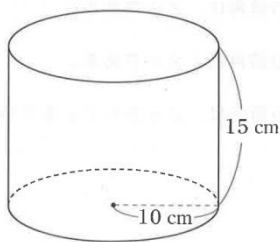
分析

◆本市の平均正答数は、23.3 問（全 36 問）で全国平均正答数 23.3 問と同じ結果となりました。
正答率では 65%となっており、問題や数式の意味の理解に課題が見られました。

【問題例①】

問題	5 (4)
----	-------

底面の半径が 10cm、高さが 15cm の円柱の体積を求めなさい。ただし、円周率は π とします。



正答

1500 π 本市正答率 56.7%
(全国) 51.8%

<分析>

誤答例

300 π	<u>本市解答率</u>	4.8%	(全国)	5.6%
150 π	<u>本市解答率</u>	6.4%	(全国)	7.0%
500 π	<u>本市解答率</u>	2.1%	(全国)	1.7%
100 π	<u>本市解答率</u>	0.6%	(全国)	0.5%
その他	<u>本市解答率</u>	21.5%	(全国)	23.6%
	<u>本市無解答率</u>	8.0%	(全国)	9.7%

○本市正答率は、全国に比べて 4.9 ポイント上回っています。無解答率も全国と比べると 1.7 ポイント低くなっています。

◆誤答では、その他の解答の割合が他の選択肢に比べて高くなっていますが、この中には、円周率 π がない「1500」という解答があります。これは、 π という記号の扱いの理解が十分でないと考えられます。

◎円の面積及び円柱の体積の求め方は、小学校6年生で学習しています。小学校では、円周の長さや円の面積で円周率を扱いますが、ここでのつまずきが少なからず影響していると考えられます。様々な図形の面積や体積の求め方の理解のもとに、公式に当てはめたり、数値を記号化したりすることが必要です。

【問題例②】

問題 10 (3)

下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。この反比例の比例定数を求めなさい。

x	...	2	3	4	...
y	...	18	12	9	...

正答 36 $\frac{\text{本市正答率 } 31.2\%}{(\text{全国}) 34.4\%}$

<分析>

誤答例

9, 4, $9/4$ のいずれかを解答

本市解答率 8.9% (全国) 6.3%

-6, -3 のいずれかを解答

本市解答率 2.7% (全国) 3.5%

6, 3 のいずれかを解答

本市解答率 15.6% (全国) 16.2%

上記以外の解答

本市解答率 18.2% (全国) 18.8%

本市無解答率 23.4% (全国) 20.8%

◆本市正答率は、全国に比べて 3.2 ポイント下回りしました。無解答率も、2.6 ポイント上回り、反比例の理解に課題が見られました。

◆誤答では、 x の値が 1 変化した時の y の値の変化である 6 や 3 と解答した割合が高く、比例における比例定数と混同していると考えられます。

◎表から x の値とそれに対応する y の値の
 に着目し、比例や反比例の特徴と関連付けて
 考える力が求められます。 x の値と y の値の
 積が常に一定になっていることに気付けるよ
 うに、問題の意味を考えながら学習するこ
 とが必要です。

<中学校数学B>

【領域別の分析】

結果から分かること

○「関数」の領域では全国平均正答率を約2ポイント上回り、「図形」では約5ポイント上回りました。

◆「数と式」「資料の活用」の領域では、全国平均正答率を約1.5ポイント下回りました。

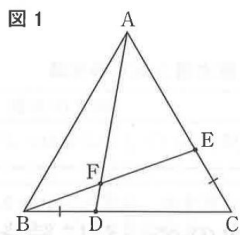
分析

◆設問ごとにみると、概ね全国と傾向は同じですが、本市正答率が30%を下回った問題が4問、無解答率が30%を超えた問題が2問でした。事象に対する理由を考え、数学的に説明することについて課題があり、得た知識や技能を活用する力を身に付ける必要があります。

【問題例①】

問題 4

下の図1のように、正三角形ABCの辺BC, CA上に $BD=CE$ となる点D, Eをそれぞれとります。また、線分ADと線分BEの交点をFとします。ただし、点Dは点B, Cと、点Eは点C, Aと重ならないものとします。



(1) 図1において、 $\triangle ABD \equiv \triangle BCE$ を示し、それをもとにして、 $\angle BAD = \angle CBE$ となることの証明を完成しなさい。

正答例

$\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ において、

仮定より、 $BD=CE$ …①

$\triangle ABC$ は正三角形であるため、
 $AB=BC$ …②

$\angle ABD = \angle BCE$ …③

①, ②, ③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$\triangle ABD \equiv \triangle BCE$

合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BAD = \angle CBE$

本市正答率 53.3% (全国) 44.1%

<分析>

本市無解答率 14.6% (全国) 20.3%

○本市正答率は全国を大きく上回り、無解答率も約6ポイント下回りました。このことは、三角形の合同条件を正三角形の特徴と関係づけて考えることができる生徒が半数以上いることを表しています。

◎三角形の合同条件及び正多角形の特徴については、小学校5年生で学習しています。条件を既習内容と結びつけ、筋道を立てて考える活動を繰り返し行うことで、理解が一層進むと考えられます。

【問題例②】

問題 5

体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分(1日あたり60分)運動することを目標にしようと考え、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。

(3) 体育委員の若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分以下の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができる理由を、若菜さんの度数分布多角形の二つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

正答例

二つの度数分布多角形が同じような形で、420分未満の度数分布多角形よりも420分以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある。本市正答率 11.1% (全国) 17.6%

<分析>

本市無解答率 32.0% (全国) 31.2%

◆本市正答率は全国を6.5ポイント下回り、数学Bの設問の中で一番差がありました。また、全国と同様におよそ1/3の生徒が無解答でした。これは、度数分布多角形が何を表し、その特徴から何が分かるのかが理解できていないと考えられます。

◎問題文から、合計点を比較することをおさえ横軸に着目すること、相対度数の資料で容易に比較できることなど、資料の特徴を的確に捉え、情報を整理する力をつける必要があると考えられます。

<小学校質問紙調査>

【質問例①】

質問

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市児童の割合
85.2%

<分析>

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、15ポイント以上、全国と比較して上回っています。
- 「自分で課題を立てること」「情報を集め整理すること」「調べたことを発表する」といった学習活動を行っていた児童は国語、算数ともに正答率が高い傾向が見られます。
- ◎自分が立てた課題について調べそれを発表すること、また友達が調べたことについての発表を聴くこと等の学習活動が学力向上につながると考えられます。

【質問例②】

質問

今住んでいる地域の行事に参加していますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた本市の児童の割合
56.4%

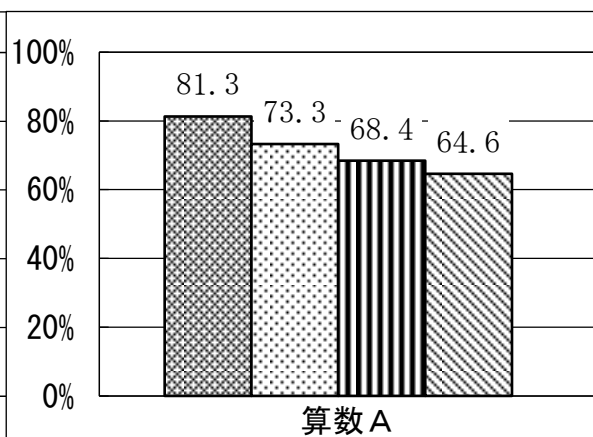
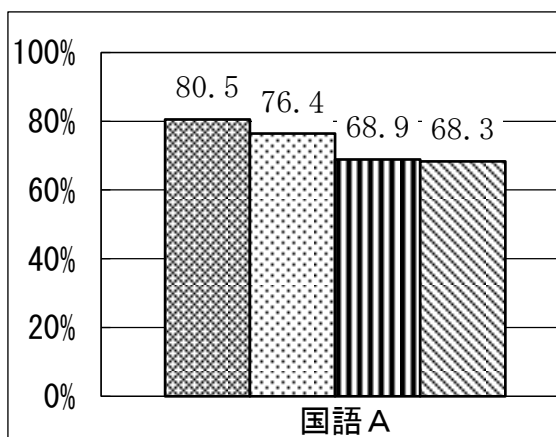
<分析>

- ◆「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して下回っています。
- ◆およそ40%の児童が、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答しています。
- ◎地域で行われている行事を知り、その行事に参加し、参加する楽しさを味わっていくことが必要であると考えられます。
- ◎地域の行事に参加することにより、地愛を愛する力が生まれ、より一層、地域の活性化へつながるものと考えます。また、行事に参加することにより、様々な人と出会い、幅広い物の見方・考え方を身に付け、学力向上につながると考えられます。

クロス集計の結果

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合	国語A (平均正答率)	算数A (平均正答率)
当てはまる	42.4%	80.5%	81.3%
どちらかといえば、当てはまる	42.8%	76.4%	73.3%
どちらかといえば、当てはまらない	11.8%	68.9%	68.4%
当てはまらない	2.7%	68.3%	64.6%



<中学校質問紙調査>

【質問例①】

質問

1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合

91.7%

<分析>

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を9.9ポイント上回っています。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」、の質問についても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を8.3ポイント上回っています。
- ◆「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」、の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を5.9ポイント下回っています。
- ◎主体的・対話的な学習に向けて授業改善が進んでいます。それらを、より深めるために、「発表」に関して指導方法の工夫改善を行っていく必要があると考えます。

【質問例②】

質問

家で、学校の授業の復習をしていますか。

回答結果

「している」「どちらかというとしている」と答えた本市生徒の割合

59.8%

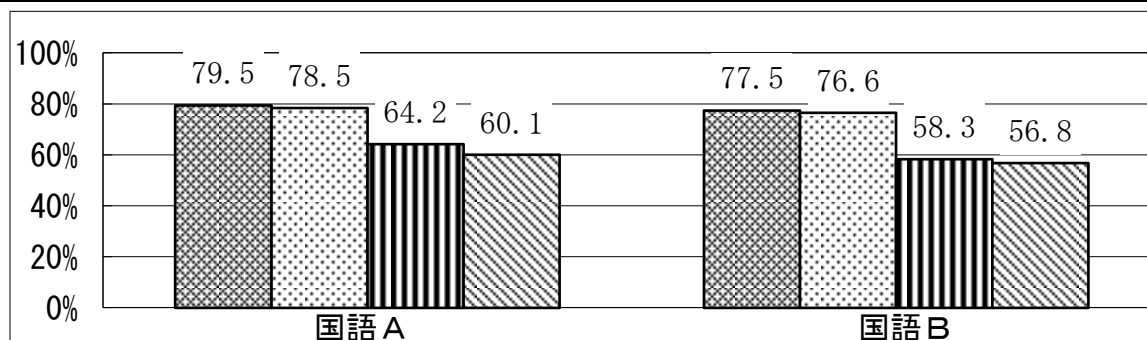
<分析>

- 「している」「どちらかというとしている」と答えた生徒の割合は、全国の平均を9.3ポイント上回っています。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」、の質問について「30分以上」と答えた生徒の割合は、全国の平均を8.9ポイント上回っています。
- ◆「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームする時間は除く）」の質問については、「2時間以上」と答えた本市の生徒の割合は、33.1%で、昨年度より、5.8ポイント上回っています。
- ◎各種メディアの急速な普及の中、その使い方や時間管理について家庭で話し合うことが、より一層求められています。

クロス集計の結果

「1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」×「教科に関する調査」（正答率）

選択肢	生徒数の割合	国語A（平均正答率）	国語B（平均正答率）
当てはまる	53.1%	79.5%	77.5%
どちらかといえば、当てはまる	39.6%	78.5%	76.6%
どちらかといえば、当てはまらない	5.9%	64.2%	58.3%
当てはまらない	1.4%	60.1%	56.8%



＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

※「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成29年4月13日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

小学校

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	5	58.7	58.0	4	56.7	57.5	4	52.5	52.4
読むこと	5	60.8	60.5	9	64.3	63.2	9	76.5	74.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	16	71.8	72.4	17	72.6	72.2	17	68.7	68.4

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
数と計算	11	68.2	66.4	12	68.0	66.2	11	74.0	70.0
量と測定	7	61.3	64.8	6	53.2	52.6	7	61.8	59.0
図形	6	50.1	51.6	7	69.1	66.9	7	62.9	61.7
数量関係	6	59.6	60.2	7	57.5	56.1	7	55.0	53.9

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本市の達成率、下段：県の達成率、 は８０％以上

内容	項目	第４学年	第５学年	第６学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	89.7 91.0	94.3 94.4	97.5 95.6
	② 授業開始時刻	90.3 91.4	95.3 95.2	96.5 95.9
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	83.4 84.0	87.9 87.6	90.4 89.1
	④ 整理整頓	80.8 82.1	83.8 84.6	85.0 84.1
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	78.9 81.2	83.2 82.1	82.8 82.1
	⑥ 返事	86.2 87.9	91.8 90.0	89.4 88.1
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	86.0 85.1	90.1 88.2	89.9 87.8
	⑧ やさしい言葉づかい	83.9 84.1	88.4 85.7	87.1 83.8
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	83.7 79.5	91.5 89.3	91.1 88.6
	⑩ 話を聞き発表する	76.5 78.6	82.4 78.8	80.5 75.1
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	83.7 82.7	91.0 86.9	91.1 86.8
	⑫ 掃除・美化活動	82.8 87.0	90.7 88.9	92.6 87.7

中学校

国語	第 1 学年			第 2 学年			第 3 学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	4	71.4	68.9	4	66.6	63.2	4	53.9	52.8
読むこと	9	75.0	73.0	9	62.6	59.7	9	72.9	68.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	59.2	58.8	17	59.9	57.8	17	55.4	52.4

数学		第 1 学年		
教科の領域等		設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校 領域	数と計算	10	61.0	59.9
	量と測定	7	63.2	62.1
	図形	7	65.0	64.7
	数量関係	8	80.5	77.9

数学		第 2 学年		
教科の領域等		設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校 領域	数と式	12	63.4	60.5
	図形	7	54.0	50.6
	関数	7	62.6	59.4
	資料の活用	6	43.8	42.7

数学		第 3 学年		
教科の領域等		設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校 領域	数と式	12	72.0	68.8
	図形	8	71.5	68.1
	関数	7	42.9	40.1
	資料の活用	5	69.9	64.9

※ 数学の調査においては、第 1 学年の内容は小学校の学習内容から出題されています。

英語	第 2 学年			第 3 学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
聞くこと	10	65.9	63.1	10	65.0	60.9
話すこと	—	—	—	—	—	—
読むこと	21	61.8	59.4	23	59.5	55.4
書くこと	7	61.0	55.7	7	54.6	47.2

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本市の達成率、下段：県の達成率、 は８０％以上

内容	項目	第１学年	第２学年	第３学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	98.8 98.1	97.7 97.5	97.6 97.0
	② 授業開始時刻	99.2 98.2	98.7 97.6	97.8 97.2
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	92.4 92.7	93.2 91.2	90.9 91.9
	④ 整理整頓	86.7 88.0	85.0 84.9	86.8 85.8
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	85.9 85.1	86.7 85.2	82.0 82.4
	⑥ 返事	93.1 90.5	90.9 88.4	88.5 86.8
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	94.3 92.2	92.5 90.5	91.3 89.4
	⑧ やさしい言葉づかい	92.6 91.1	88.7 86.9	85.2 84.0
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	94.9 91.6	93.9 88.6	91.2 87.7
	⑩ 話を聞き発表する	82.2 77.6	77.2 69.5	69.3 66.6
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	95.3 94.0	96.2 93.2	93.5 92.3
	⑫ 掃除・美化活動	88.7 84.8	89.0 85.4	85.0 82.2

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「児童生徒の進路実現に向けた小・中学校の一貫性のある学習指導の推進」、「思考力・判断力・表現力等の育成を図る言語活動の充実」、「児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促す指導の推進」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、これまでの調査結果を分析して成果や課題を明らかにし、学力向上プランを見直し、教職員で課題を共通認識して、授業改善等に取り組むことを確認しています。教育委員会としましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、埼玉県教育局南部教育事務所の支援を受けながら、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会（授業改善・言語活動等）の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表会
桶川西小学校	算数科	学ぶことの楽しさを味わわせ、 基礎基本の定着を図る算数指導	平成29年 11月17日(金)
加納小学校	国語科	確かな学力を育む授業の創造 ～国語科「読むこと」の指導を通して～	平成30年 2月9日(金)
桶川西中学校	学習指導	確かな学力を育む指導方法の研究 ～言語活動による思考・表現の可視化を通して～	平成29年 11月22日(水)

2 1時間1時間の授業改善（具体的な指導法の工夫・改善）

- (1) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の充実【主体的な学びの実現】
 - 学習課題（ねらい）の明示
 - 自分なりの追究方法や手順等の選択・決定への支援
 - 課題に対応したまとめ
- (2) 思考力・判断力・表現力の育成を図る言語活動の充実【対話的な学びの実現】
- (3) 体験的・問題解決的な学習の充実【深い学びの実現】
 - 予想の場や試行錯誤する場の設定

3 個に応じた指導の充実

- (1) TTや少人数指導などきめ細やかな指導の充実
 - * TT（ティーム・ティーチング）…1教室に複数の教師が入り、分担・協力して指導する方法
 - * 少人数指導…学級よりも少人数の集団で授業を行う方法
- (2) 各種補助員等の配置
 - 個に応じた指導を充実させるため、各校に各種指導補助員等を配置。

保護者の皆様へ

今回の調査で、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」、「家の人（兄弟姉妹を除く）と将来のことについて話すことがありますか」の設問において「している、どちらかといえばしている」と回答している児童生徒の方が、「していない、どちらかといえばしていない」と回答している児童生徒と比べて平均正答率が高い傾向が見られました。これまでの家庭学習への取組を継続するとともに、コミュニケーションを大切にすることが学習への意欲だけでなく、思考力・表現力の向上にもつながると考えられます。保護者の皆様には、学校での教育活動にご理解、ご協力をいただきながら、学習時間の確保を図るとともに、お子様と過ごす時間を大切にさせていただきますようより一層のご協力をお願いいたします。

生きる力を育み 未来へはばたく 桶川の教育

確かな学力

- ◆児童生徒の進路実現に向けた小・中学校の一貫性のある学習指導の推進
- ◆思考力・判断力・表現力等の育成を図る言語活動の充実
- ◆児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促す指導の推進

豊かな心

- ◆豊かな人間性を育む道徳教育の推進
- ◆いじめ撲滅を目指す生徒指導の推進
- ◆一人一人を大切にする特別支援教育の充実

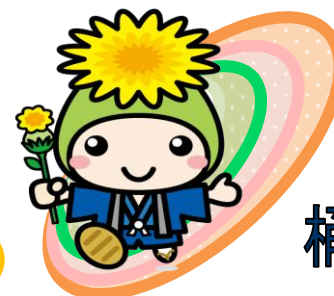
・生徒指導研究推進
モデル校 桶川東中

健やかな体

- ◆運動の楽しみや喜びを味わえる体育授業・体育的活動の充実
- ◆健康課題を解決するための資質・能力を育成する健康教育の充実
- ◆学校給食を活用した望ましい食習慣を目指す食育の推進
- ◆自他の生命を尊重し、安全に配慮した安心・安全な学校づくりの推進

桶川教育の3本柱

桶川市教育委員会・桶川市教育研究会委嘱研究「市内全小・中学校」
今年度本発表校・・・桶川西小 平成29年11月17日（金）
加納小 平成30年 2月 9日（金）
桶川西中 平成29年11月22日（水）



桶川市教育委員会

平成29年度 桶川市教育委員会 学校教育 指導の重点・努力点

桶川市教育行政基本方針の基本理念「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

- 基本目標**
- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
 - II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
 - III 健やかな体の育成
 - IV 家庭・地域の教育力の向上
 - V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
 - VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

学校経営

○創意工夫を生かし、特色ある教育活動の充実を目指す
小・中学校8年間を見通した一貫性のある学校教育の推進(I)
学習環境の整備・充実(I)
教職員の資質能力の向上(I)
学校応援団の充実(IV)

- 学校教育目標の具現化
- 地域や各学校の実態に即した教育課程の編成、実施、評価
- 夏季休業日の短縮に伴う教育活動の工夫
- 研修の充実と指導力の向上
- 家庭や地域社会との積極的な連携、異校種間を軸とした学校間の連携・協力
- 課題把握と課題解決に向けた学力向上プランの策定と取組

学級経営

・児童生徒一人一人に、自己表現を図る態度や自ら学び、自ら考える力を育成し、魅力ある学級づくりに努める

- 学校の教育目標の達成を図り、創意工夫を生かした学級経営の推進
- 児童生徒一人一人の自主的、実践的意欲の育成を目指す学級経営の推進
- 児童生徒の指導に役立てる計画的・継続的な評価の実践
- 児童生徒一人一人のよい点や可能性を伸ばす指導の工夫

学習指導

○生きる力を伸ばす授業の創造を目指す
一人一人の確かな学力を育む教育の推進(I)

- 言語活動の充実による児童生徒の思考力、判断力、表現力等の育成
- 学習意欲の向上と家庭学習を視野に入れた指導の推進
- 児童生徒一人一人に応じた指導の充実
- 小・中学校の連携を生かした学習指導の改善・充実
- 各種調査(学力・学習状況調査等)結果の分析を活用した学力向上の取組の充実

生徒指導

○心豊かな児童生徒の育成を目指す
心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実(II)
いじめ・不登校の未然防止の推進(II)

- 基本的な生活習慣の育成と生き甲斐のある学校生活の実現
- 全教職員の共通理解に基づいたいじめ・不登校対策の充実
- 小・中学校を始め、家庭・地域社会、関係機関との連携の推進

進路指導・キャリア教育

○自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、進路指導・キャリア教育の充実を図る
主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進(I)

- 全教職員による協力的指導体制の整備と校内研修の充実
- 小・中学校の連携と家庭・地域の理解が得られる体制づくり
- 進路段階に応じたキャリア教育の推進

道徳教育

○人間としての生き方についての自覚を深め、実践できる児童生徒の育成を目指す
豊かな心を育む教育の推進(II)

- 学校教育目標や児童生徒、家庭・地域の実態等を考慮した全体計画の作成
- 基本的な生活習慣の定着及び道徳性を養う指導の充実
- 全教育活動を通じた実践と家庭・地域との連携

総合的な学習の時間

・主体的な課題意識や自己学習力を育成する

- 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた全体計画の作成・改善
- 指導と評価の計画の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組
- 保護者や地域の人々の教育力を活用した体制づくりの推進

特別活動

○望ましい集団活動を通して、児童生徒一人一人の個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成を図る

- 全教職員の協力の下、学校の特色生かした指導計画の作成と活用・実践
- 児童生徒の自主的、実践的、活動意欲を高める指導と評価の工夫
- 特別活動の各活動を適切に指導するための指導時間の確保

学校教育相談

○児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために本人又は保護者などへの支援を通じて、よりよい人格の形成を図る

- 学校教育相談体制の充実(さわか相談員、SC・SSWの配置、教育センターの運営、適応指導教室の運営、特別支援教育との連携)
- 学校教育相談の積極的推進(不登校児童生徒の登校支援)
- 相談機関等との連携
- 各種調査結果の分析を活用した児童生徒理解の推進

体育

○健やかな体と豊かな心をもった児童生徒を育成する
体力向上を目指した学校体育の充実(III)

- 心と体を一体としてとらえ、児童生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえる指導の実践
- 体力向上を目指した体育的活動の実践
- 体育施設・設備の整備と事故防止の徹底

健康教育

○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する
食育の推進を通じた健康教育の充実(III)
家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進(III)

- 健康の大切さを認識し、健康課題を解決するための資質・能力の育成
- 自他の生命を尊重し、自他の安全に配慮した行動できる資質・能力の育成
- 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成
- 家庭・地域社会・関係機関等と連携した取組の実践

人権教育

○人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒を育成する
学校教育における人権教育の推進(II)

- 全教職員の共通理解に基づく推進体制の確立
- 児童生徒の発達段階を踏まえた全体計画や指導計画に基づく着実な実践
- 他者の痛みを共有できる豊かな人権感覚の育成
- 保護者・地域・関係機関等との連携

特別支援教育

○すべての学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する
共生社会を支える特別支援教育の推進(I)

- 適切な就学相談の充実
- 児童生徒一人一人の実態に応じた教育的支援の充実(こたの教室・通級指導教室)
- 特別支援教育推進を図る校内支援体制の充実
- 研修の充実と指導力の向上

国際理解教育

○国際社会において信頼され、世界の平和と発展に貢献できる能力と態度の育成に努める

- コミュニケーション能力の育成
- 外国人児童生徒、帰国児童生徒の支援
- 創意工夫を生かした特色ある指導計画の作成と活用・実践

情報教育

○情報及び情報手段を主体的に収集・選択し、活用できる情報活用能力の育成に努める
時代の変化に対応する教育の推進(I)

- 学校や地域の実態等を踏まえ、情報教育を位置付けた教育計画の充実
- ICTを活用した学習指導の充実と諸条件の整備
- 児童生徒の情報活用能力を育てる学習指導方法・教材の工夫

環境教育

・環境を大切にすると心と主体的に行動できる能力や態度を育てる

- 全体計画・年間計画に基づいた指導の充実
- 持続可能な社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成
- 地域の自然環境や社会環境等を生かした環境教育の推進

ボランティア・福祉教育

・社会福祉への関心と理解を深め、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心と態度を身に付ける

- 発達段階に即したボランティア活動・福祉体験の実践
- 学校や地域の実態に即したボランティア活動・福祉教育の推進

男女平等教育

・児童生徒一人一人が個性や能力を発揮して、自らの意思により行動できるよう、男女平等の意識を高める教育を推進する

- 教育活動全体を通して組織的・継続的な指導の推進
- 発達段階に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善
- 家庭や地域社会との連携

学校図書館教育

・学校図書館の利用に必要な基礎的な知識や方法の習得及び自発的な学習の態度の育成に努める

- 学校図書館の利用を位置付けた指導計画の作成
- 学校図書館を利用した学習の充実、情報活用能力の育成
- 図書館と連携した子供読書活動の推進